

昭和大学新新聞

学校法人 昭和大学
 発行人 小口勝司
 電話 (3784) 8000 〒142-8555
 東京都品川区旗の台1の5の8
 1部 50円 毎月1回発行

12月号の内容

- 1面
 - 令和2年度解剖慰霊祭
 - 本学のオンライン臨床医学教育カリキュラム
- 2面
 - 太田晴久准教授らの研究グループが発達障害の感覚過敏に関して解明
 - プレストセンター開設10周年
 - 石川絢司講師が優秀演題賞を受賞
 - 湯合翔さんが若手優秀賞を受賞
 - 神崎俊治技士が優秀演題賞を受賞
- 3面
 - 富士吉田キャンパスの思い出
 - 推薦入試・編入学試験を実施
- 4面
 - 「新しい生活様式」における私のステイホーム
 - 就任のお知らせ
 - 昭和大学各附属病院へのご支援の状況
 - 昭和大学サポート寄付金寄付者氏名
 - 昭和大学ブルーウイングが横浜市長杯で優勝

【問合せ先】

【本紙について：総務課出版・WEB係】
 03-3784-8059
 press@ofc.showa-u.ac.jp

【各種募金・寄付について：企画課】
 03-3784-8387

【学事について：学務課・大学院課・入学支援課】
 03-3784-8022(飯の台)
 0555-22-4403(富士吉田)
 045-985-6503(横浜)
 03-3784-8026(入学支援課)

令和2年度解剖慰霊祭



黙祷を捧げる参加者一同



祭文を捧げる中村雅典教授



献花の様子

令和2年度解剖慰霊祭が10月20日、上條記念館にてしめやかに執り行われた。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、感染対策を講じたうえで一部の教育職員と学生代表のみが参加した。

解剖慰霊祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典。令和元年9月1日から令和2年8月31日までにご献体

いただいた106柱の霊位が祀られ、参加者からご尊霊に対し、黙祷が捧げられた。その後、参加者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

式典では、中村雅典教授(歯学部口腔解剖学講座)が「医学教育と医療の発展のために解剖を承諾され、ご遺体を供して崇高なるご遺志を示された諸霊に感謝いたします。医療発展のため

に真摯な努力を怠らず、今後も医学・歯学・薬学・保健医療学の向上と社会福祉に寄与するために努力を重ねることをお誓い申し上げますと祭文を捧げた。

また、医学部と歯学部の学生代表が「新型コロナウイルスにより医療の重要性と更なる進歩の必要性を実感するとともに、この新たな時代のなか、私たちは社会に役立つ優れた医療人を目指すに勉学に励んでおり、その中で特に解剖学実習は、将来医療に携わる者としての自覚や人間性を培うためになくてはならない実習です。ご献体くださいました皆さま、ならびにご遺族の皆さまの尊い思いを深く心に刻み、限らない感謝の気持ちを捧げるとともに、我々の目指す医療人像に向けて精進してまいります」と弔辞を述べた。

日本型教育の海外展開推進事業は、外務省・経済産業省や国際協力機構(JICA)、日本貿易振興機構(JETRO)、地方公共団体、教育機関、民間企業、NPOなどが協力して、有識者会議やシンポジウム等を通じて関係者間で議論・情報共有を図るとともに、海外見本市への出席、個別相談、パイロット事業の支援等を実施し、海外展開モデルを形成することで、日本型教育の海外展開を促進する。鈴木講師らは、新型コロナウイルス感染症の影響により休止になっていた臨床実習の代替案として、バーチャルリアリティ(VR)型臨床医学シミュレーションソフトウェア「Body Interact」を導入。学生が所有する情報端末を介した新しい臨床医学教育として「ICTを



Body Interact 使用の様子

用いた新型医学教育システム「ICT mediated medical education(通称:ime, アイミー)」を充足した。

Body Interactにより学生は自宅にいなからパソコン等を用いて、バーチャル模擬患者の診療をシナリオプレイで学修することができるようになり、教育職員はimeでそのプレイ状況を管理・評価が可能となった。また、オンライン会議システムZoomを用いて、シナリオのデモ・プレイをライブ配信し、実際の臨床現場での注意点を、教育職員の臨床経験を基に解説を加え、質疑応答も行う。

鈴木静馬准教授のコメント
 2020年は新型コロナウイルスと人類の激しい戦いが行われた年でした。単なる新興感染症ではなく、フィジカルディスタンスやマスクの常時着用、リモートワークなど、人々の生活様式を大きく変容させ、それはウィーホコロナ時代のニューノーマルと呼ばれています。医学教育の分野にもこの荒波は襲ってきました。全国で流行が盛んになった3月以降、本学医学

部でも講義や実習を続けるか否かの決断が迫られました。感染防止から学生の健康を保持するため、大学キャンパスのロックダウンと臨床実習の中止が決まりました。

しかし、小風暁医学部長からの「医学部生の学ぶ手を止めない」という号令の下、私どもが以前から臨床医学教育に試用していたシミュレーションソフトウェア「Body Interact」を利用するのはどうかとお声がかかりました。私どもおよび相良博典教授は以前より基礎・臨床統合型カリキュラムを終えた医学部生の臨床実習においてBody Interactを活用し、学生のアナフィラキシーショックに関する病態学修・診療技能の向上に努めてきました。時幸いにして

Body Interactを使ったシナリオの反復学修による長期学習効果に関する研究を計画していた矢先の出来事であり、とても円滑に医学部5年生・6年生の臨床実習の代替案として導入することが可能となりました。

臨床医学教育改革ワーキンググループでも既にICTを活用した新しい医学教育のビジョンを描いて行動していたため、全国の医学部に先駆けてオンラインで教育職員と学生がインタラクティブに教育・学修を推進することに成功したと考えています。

その後、科学研究費助成も決まり、国が目指す新たな医学教育のニューノーマルに適合した教育カリキュラムを昭和大学が独自に立案・実行できたことが可能になりました。

初めの試みでしたが、通信上のトラブルや学生のICTリテラシー不足など解決すべき問題も散見されましたが、現在ではいずれも解決され、新たに医学部4年次での演習も開始し、ICTを積極的に活用する昭和大学の新たな医療人育成の先鞭をつけ、更なる飛躍の土壌を形成でき

本学のオンライン臨床医学教育カリキュラム 文部科学省の海外展開推進事業紹介事例に採択



健康応援オーケストラ
 株式会社 **メディセオ**

東京本社 〒104-8464 東京都中央区八重洲二丁目7番15号 TEL/03 (3517) 5050 (代)
 URL/http://www.mediceo.co.jp

たのではないかと自負しております。

現在、我々は次年度の新2年生から導入される新医学部カリキュラムにも講義内でBody Interactによるシミュレーション教育を取り入れ、医学部生の自主学修の効率が向上できるように計画を練っています。

高等教育におけるICT活用およびシミュレーション医学教育分野で昭和大学が日本一、さらに世界一になることを目指して邁進いたします。

末筆になりますが、本カリキュラムに対してご支援・ご指導を賜った久光正学長、木内祐二副学



(左) 鈴木慎太郎講師、(右) 土屋静馬准教授

長、泉美貴医学教育推進室長、中村明副センター長(総合情報管理センター)、田中明彦准教授(医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門)、株式会社内田洋行の関係者各位に改めて感謝申し上げます。